

平成18年度構造改善支援事業

「輸入価格に影響力を持つ国内市場の構築」調査研究に関する結果概要

1. 実施者

社団法人 全国エルピーガス卸売協会

2. 調査概要

(1) 目的

近年我が国のLPガス需要は、都市ガス及び電力との競争が強いられるなかで、減少傾向にあり、その市場シェアを失っている。LPガス業界は、消費者がそれらの競合エネルギーを選択しているという現実を真摯に受け止める必要があるといえる。

この需要後退の背景として、LPガスの価格競争力が低下していることが挙げられる。近年LPガスの輸入価格は、その水準を大幅に上昇させただけでなく、変動幅も拡大させた。

過去数年にわたり卸売事業者は、小売価格を下げるための努力を進めてきたが、輸入価格の上昇によって、そうした努力が消し飛んでしまっているのが現状である。LPガスの価格競争力の回復を実現するためには、輸入価格を低く抑える方策を探る必要がある。

全国エルピーガス卸売協会が昨年度実施した調査では、我が国のLPガス市場が輸入市場からの影響を一方的に受けている状況について、その実態把握と原因究明を図った。

同調査研究では、我が国のLPガス市場がレギュラー契約を偏重するために、価格に対して非弾力的となり、我が国の需要の増減が輸入価格に対して影響を及ぼし難いという結論に至った。本年度の調査研究では、競争力の高いLPガス価格を実現するために、輸入価格への影響を及ぼす具体的な方策を模索した。

(2) 実施方法

全卸協流通開発委員会の下部組織として、「輸入価格に影響力を持つ国内市場の構築」調査研究ワーキンググループを設置し、現状把握と効果的な方策の立案とその実現性の検証を行なった。

卸売大手12社を対象にしたアンケート調査
現状把握および取引作法の改善に関する討論
地方支部における意見交換会
有識者による提案プレゼンテーションの聴講

3. 調査結果概要

(1) 我が国が輸入価格に与えるべき影響

我が国は世界最大のLPガス輸入国であり、輸入価格に対して影響力を持っていないということはない。

しかし、その影響力は我が国が意図するものではなく、往々にして我が国にとって不利益に働くものになっている。

国内LPガス価格は、輸入価格に影響を受ける。したがって、輸入価格に影響を与えなければ、競争力の高い国内価格を実現することができない。

(2) 卸売事業者の責務

輸入価格は、卸売事業者の仕入れ価格を変動させる要因である。したがって卸売事業者こそが輸入価格に問題意識を持たなければならない。

卸売事業者は、我が国の需要の変化をいち早く知る立場になる。我が国の需要動向を輸入価格に反映させるためには、卸売事業者の発注に基づいて輸入時期と数量が調整される仕組みが必要である。

輸入相場が低い時に我が国の輸入量を増し、高い時には減らすという仕組みを実現するためには、輸入相場が低い時点で卸売事業者の注文が集まる構造が必要となる。

(3) スポット枠拡大の必要性

輸入時期および数量を決定付ける仕組みを構築するためには、卸売事業者が発注時期と数量を調整できる自由度を持たなければならない。このためには、レギュラー契約による仕入れ数量

を減らして、スポット仕入れの割合を増やす必要がある。

しかしスポット枠の拡大により、安定供給に支障が無いことが重要である。卸売事業者のスポット枠が、元売事業者の契約外輸入(スポット輸入)の範疇を超えることは望ましくない。また、卸売事業者は、スポット発注に際して、国際市場の情報を把握しておくことが必要である。

(4) スポット枠拡大に付随する条件

スポット枠の拡大は、輸入価格が我が国の需要動向を適切に反映することを目指すものである。つまり、競争力の高いLPガス価格を実現することによって、需要の維持成長を目的とするものである。

我が国の需要を輸入価格に反映させるためには、輸入に先立って卸売事業者の発注がなされることが不可欠である。

卸売事業者のスポット発注は、その時点の輸入価格と整合性の取れた価格でなされなければならない。輸入相場を大きく下回る価格を要求した場合、元売事業者は卸売事業者のスポット発注を受けることが出来ないためである。

(5) スポット拡大に伴う懸念事項の検証

現状においてスポット仕入れの比率が高い卸売事業者の例を見ると実害は、ないと考えられる。また、スポット枠の拡大は、需要に応じた輸入をする構図を作るためである。現状のように元売事業者の在庫から出荷される仕組みよりも、必要な供給量が確保され易い仕組みと考えることも出来る。

スポット枠の拡大は、需要以上の輸入による価格の高騰を防ぎ、また、輸入相場が低いところを狙って仕入れるという、仕入れコスト低減を目的する方策である。

輸入価格の低減に働きかけることが出来ない現在の値決め方法と比較して、コストを低減できる可能性は、高いと考えることが出来る。また、輸入価格の高騰を抑えることで、輸入価格連動のフォーミュラによるレギュラー枠の仕入れコストも下げることが期待できる。

4. 調査研究結果から得られた効果

(1) コスト削減効果

仕入れ全体の10%をスポット枠とした場合のコスト試算を2006年の輸入価格データを利用して行なった。スポット仕入れの時期と数量の調整を行った場合の仕入れ総コストは、レギュラー100%の仕入れを行った場合のそれを下回った。また、スポット仕入れの調整の緻密さに比例して、コスト削減額が大きくなることも証明された。

(2) 輸入価格をモニターすることの重要性

卸売事業者がスポット枠の仕入れ時期と数量を適切に調整するためには、輸入価格の予測の精度を高める必要がある。輸入市場の情報を緊密にモニターすることで、輸入価格の方向性を的確に把握し予測の精度を高めることができると検証された。

5. 調査結果の今後の活用、調査結果を踏まえた今後の取り組み

競争力の高いLPガス価格を実現するために、卸売事業者はスポット枠での仕入れ時期および数量を調整することの重要性が顕著となった。

卸売事業者がそうした仕入れを行うことで、元売事業者による適切な輸入時期と数量の調整をサポートすることができると考えられる。卸売事業者によるスポット仕入れ枠の拡大に付随する問題とその対処についても検証がなされ、一定の結論が導きだされている。今後全国エルピーガス卸売協会では、本調査研究で得られた結論を広く卸売事業者に啓蒙して行くと同時に、その実現を視野に元売事業者との協議を進めていきたい。

6. 確定金額

7,535,335円